第 211 回 誘電・絶縁材料技術委員会 議事録（案）

１．日時　　2013 年 12 月 10 日(火)　13:30～17:00
２．開催場所　　自動車会館 2 階小会議室
　　〒102-0074 東京都千代田区九段南 4-8-13
３．出席者　　(順不同，敬称略，○：出席，×：欠席)

幹事団

田中委員長(東京都市大)	○	池田幹事(原子力安全基盤機構)	○	関口幹事(住友電工)	○
布施幹事補佐(電中研)	○	今井幹事補佐(東芝) 記	○		

１号委員

藤田委員(昭和電線)	○	岡本委員(富士電機)	×	小林委員(日立製作所)	○
平野委員(東芝)	○	八木委員(ビスキャス)	○	中坊委員(日新電機)	○
菱川委員(ﾊﾝﾂﾏﾝ･ｼﾞｬﾊﾟﾝ)	×	近藤委員(日本ｶﾞｲｼ)	○	穂積委員(豊橋技科大)	×
本城委員(三菱電線)	×	武藤委員(三菱電機)	×	千綿委員(日立金属)	○
蔵田委員(明電舎)	×	長尾委員(豊橋技術大)	○		

２号委員

岩本委員(東工大)	×	江原(東京都市大)	×	加藤委員(新潟大)	×
永田委員(兵庫県立大)	○				

オブザーブ委員

田中(祀)委員(早稲田大)	×	本間委員(電中研)	×

元１号委員

岡下委員(昭和電線)	○

４．提出資料

番号なし　第 210 回 誘電・絶縁材料技術委員会 議事録（案）
DEI-211-1　電気学会 誘電・絶縁材料技術委員会 委員名簿
DEI-211-2　第 98 回 基礎・材料・共通部門研究調査運営委員会報告
DEI-211-3　電気学会会長との意見交換会について（実施報告）
DEI-211-4　調査専門委員会フォローシート（2013 年度計画）
DEI-211-5　平成 25 年度 誘電・絶縁材料研究会，技術委員会，その他行事予定（3 次案）
DEI-211-6　優秀論文発表賞候補者推薦のお願い
DEI-211-7　研究会における発表の審査結果（途中経過）
DEI-211-8　電気学会論文誌特集号 推薦論文
DEI-211-9　誘電・絶縁材料技術委員会表彰規程
DEI-211-10　第 44 回 電気電子絶縁材料システムシンポジウム 開催報告（案）
DEI-211-11　第 44 回 電気電子絶縁材料システムシンポジウム 運営上の反省点

DEI-211-12　第 30 回 誘電・絶縁材料に関する若手セミナー 開催報告 (案)
DEI-211-13　Summary and rough schedule of 2014 ISEIM
DEI-211-14　ISEIM 2014 のイベントに対する人員と予算検討に関する検討のお願い
DEI-211-15　ISEIM 2014 SS セッションでのご発表お伺い
DEI-211-16　ISEIM 2014 準備進捗状況

５．議事内容

5-1. 議事録の確認・承認（今井幹事補佐）

第 210 回 誘電・絶縁材料技術委員会 議事録(案)の確認を行い、承認された。

5-2. 名簿の確認（布施幹事補佐）

資料 DEI-211-1 に基づき、委員の所属等について確認を行った。下記の委員が交代となっている。

- ビスキャス：田中委員 → 八木委員
- 昭和電線　：岡下委員 → 藤田委員

また、変更があった場合は、適宜、布施幹事補佐に連絡する。

5-3. 第 98 回 基礎・材料・共通部門研究調査運営委員会での議事内容報告（田中委員長）

資料 DEI-211-2 および-3 に基づき、基礎・材料・共通部門研究調査運営委員会(A 部門運営委員会)議事内容において、当技術委員会に関係の深い事項が報告された。

- 日高会長から規格化推進の推進について、協力のお願いがあった。
    - 調査専門委員会の成果物である技術報告を規格に結びつけるため、技術報告を、電気規格調査会のテクニカルレポート(JEC-TR)として提出できる仕組み作りに着手する。
    - 部門研究調査規定細目 様式 2 (解散報告書)の成果の形式において、「⑥電気規格調査会テクニカルレポート(JEC-TR)」を追記する。
- 来年(2014 年)の A 部門大会は、8 月 21, 22 日に信州大学工学部で開催する。
- A 部門では、学会誌も電子配信のみとする場合、会費を安くすることを提案している。
- A 部門誌の特集号企画案が少なくなっており、てこ入れが必要となっている(当技術委員会は問題がない)。
- 論文誌の Extended Summary の廃止が決定した。
- 学生会員の会費を 3,000 円から 4,800 円に値上げする。
- 優秀論文発表賞(A 賞)受賞者の選定について、A 部門の候補者提出の締め切りは、2014 年 1 月 15 日となっている。
- 調査専門委員会における未提出の技術報告についての検討はなかったが、当技術委員会としても早急に対応を行なう必要がある。
- 当技術委員会に関する下記の審議が行われた。
    - アジア地区における有機誘電性・機能性電気電子材料の次世代エレクトロニクスへの応用に関する 調査専門委員会の設置について、設置趣意書の一部を改定することを条件に承認された。
    - A 部門活動資金 99,000 円(「ナノテク材料～ポリマーナノコンポジット絶

縁材料の世界～」の英語版出版におけるネイティブチェック費用)が承認された。

- A部門活動資金99,000円(第30回若手セミナーの開催補助)が承認された。
- A部門活動資金99,000円(第44回電気電子絶縁材料システムシンポジウムの開催補助)が承認された。

5-4. 調査専門委員会活動状況の確認（池田幹事）

資料DEI-211-4に基づき、調査専門委員会活動状況の確認を行なった。

- 技術伝承を目的とした電力設備の絶縁診断
  - 2013年9月9, 10日に、委員会を開催済み。
  - 2013年12月2日に、委員会を開催済み。
- インバータ駆動モータコイルの絶縁評価法
  - 2013年11月12日に、幹事会を開催済み。
  - 2013年11月22日に、第3回委員会を開催済み。
  - 2014年3月14日に、第4回委員会を開催予定。
- 電力機器の革新的診断技術の現状と将来展望
  - 2013年11月26日の絶縁シンポジウムで企画セッション(絶縁診断装置のデモンストレーション)を実施済み。
- 新機能・高性能有機デバイス応用のためのナノ材料・構造制御
  - 2013年10月31日に、委員会を開催済み。
  - 2014年1月30日に、次回委員会を開催予定。
- アジア地区における有機誘電体・導電性電気電子材料研究の最前線に関する
  - 2013年10月16～19日にIDC-NICE 2013(日韓ナノ界面制御素子検討会)をRCC文化センター(広島)で開催済み。
  - 2013年10月31日付けで解散済み。
  - 2014年3月末までに技術報告原稿を提出予定。
  - 2014年1月12～14日にチュラーロンコーン大(タイ・バンコク)で開催予定の研究会を協賛予定。
- 先端複合ポリマーナノコンポジット誘電体の応用技術
  - 解散済み。技術報告単行本原稿を提出済み。
- 屋外用ポリマー絶縁材料の性能評価・改質技術
  - 解散済み。技術報告を作成中。
  - 2014年2月に整理委員会を開催予定。
- PEA法による空間電荷分布測定の校正法標準化と応用測定の開発
  - 解散済み。技術報告を作成中。
- 高分子材料と放射線の相互作用評価
  - 解散済み。技術報告を作成中。
- 屋外用ポリマー絶縁材料の表面機能と長期性能
  - 解散済み。技術報告を作成中(編集作業中。97%完成している)。
- 高電界電気絶縁における電荷挙動と界面
  - 解散済み。技術報告は転載許諾などの問題から、現在見直し中。

- 後継委員会に含み入れてもらえるようにする。

➢ 後継委員会については、優先順位を付けて立ち上げを目指す。

- 優先順位 1 位：ナノコンポジットに関する調査専門委員会
- 優先順位 2 位：シミュレーションに関する調査専門委員会
  (ISEIM 2014 でワークショップを開催する)
- 優先順位 3 位：空間電荷に関する調査専門委員会
  (前委員会の技術報告完成を優先する)
- 優先順位 4 位：ポリマーがいしに関する調査専門委員会
  (前々委員会および前委員会の技術報告完成を優先する)
- 無期限保留　：高分子材料の放射線劣化に関する調査専門委員会
  (現状では設置が難しいとの意見があるため保留する)

5-5. 平成 25 年度 誘電・絶縁材料研究会，技術委員会，その他行事予定の確認（池田幹事）

資料 DEI-211-5 に基づき、平成 25 年度(2013 年度) 誘電・絶縁材料研究会，技術委員会，その他行事予定(3 次案)の確認を行った。

➢ 2013 年 12 月 11 日に開催の研究会(空間電荷・ナノコンポジット)の発表件数は 11 件。
➢ 2014 年 2 月 19 日に開催予定の研究会(劣化診断・機器・ケーブル・絶縁一般)の状況を確認する(布施幹事補佐)。また、申込みを呼びかける。
➢ 2014 年 3 月 28 日に、新潟にて技術委員会(ISEIM 組織委員会を兼ねる)を開催する。
➢ 2014 年 3 月に開催予定の研究会(国際会議報告・学際分野・絶縁一般)は、技術委員会とは別に開催する。
➢ 2014 年 3 月の全国大会で、新機能・高性能有機デバイス応用のためのナノ材料・構造制御のシンポジウムを開催予定。
➢ 2014 年後(平成 26 年度)の誘電・絶縁材料研究会，技術委員会，その他行事予定(0 次案)を作成する(池田幹事)。
➢ 2013 年研究会の発表件数(当技術委員会分)の合計を確認する(池田幹事)。
➢ 研究会資料の発表者への無料進呈は、2014 年度から廃止される。
➢ インバーターサージに関する研究会の開催を永田委員にお願いし、了解を得た。

5-6. 優秀論文発表賞候補者選定方法についての見直し（関口幹事）

資料 DEI-211-6 に基づき、優秀論文発表賞候補者選定方法についての見直しを行なった。

➢ 候補者選定の対象は、誘電・絶縁材料研究会での発表者(35 歳以下)とする。
➢ 推薦用紙の提出先・問い合わせの窓口は、関口幹事とする。
➢ 複数の座長でセッションを担当した場合でも、座長 1 名あたり 1 名まで推薦できることとする。
➢ 座長に候補者選定について確実に伝え、候補者を推薦してもらうようにする。

5-7. 研究会における発表の審査結果(経過報告)について（関口幹事）

資料 DEI-211-7 に基づき、研究会における発表の審査結果(途中経過)が報告された。2013 年の対象となる研究会は、12 月開催の空間電荷・ナノコンポジットで最後となるため、こ

の研究会からの推薦者を含めて、当技術委員会からの推薦者(2013 年分)を決定する。

5-8. 電気学会論文誌特集号 推薦論文について（池田幹事）

資料 DEI-211-8 に基づき、電気学会論文誌特集号 推薦論文について報告された。

- 各セッションの材料からの推薦論文は 9 件。
- プログラム委員長からの推薦論文は 2 件。
- 自薦の論文として 1 件。
- 合計 12 件について、発表者に電気学会論文誌特集号への投稿を依頼する。
- 一般者からの論文も受け付ける(電気学会誌への会告は掲載済み)。

5-9. 誘電・絶縁材料技術委員会 表彰規定の見直しについて（関口幹事）

資料 DEI-211-9 に基づき、誘電・絶縁材料技術委員会 表彰規定の見直しを行い、承認された。

- (表彰の種類)に記載の矢作賞について、「毎年表彰」を削除し、「電気電子絶縁材料システムシンポジウムが通常の形式(国内会議)として開かれる年に表彰」に修正する。
- (表彰の英文名称)に記載の矢作賞について、「技術貢献賞 矢作賞 (Yahagi Memorial Award)」を、「技術貢献賞 矢作賞および記念講演 (Yahagi Memorial Award および Yahagi Memorial Award Lecture)」に修正する。
- (表彰方法等)について、「犬石賞受賞者には ISEIM、家田賞および矢作賞受賞者には電気電子絶縁材料システムシンポジウムで講演をしていただく」に修正する。また、「表彰の日付は、シンポジウムまたは ISEIM の開催期間とする」に修正し、「初日」を削除する。
- (副賞)について、矢作賞も家田賞と同様にし、副賞を 5 万円とする。
- 犬石賞と家田賞の明確な区分については、表彰規定には記載しない。
- 各賞の候補者については、資料 DEI-211-9 に記載のスケジュールに沿って、募集・締め切り・投票を行なう。
- 表彰委員会の構成について下記の検討を行なった。次回技術委員会で、表彰委員会のメンバーを決定する。
    - 委員長を技術委員会の幹事とし、過去の受賞者 2 名(50 代以上のベテラン)、大学関係者 2 名(30～40 代の若手)、民間 3 名(企業の技術者)の構成とする。
    - 任期を決めて(約 2～3 年)、表彰委員メンバーがローテーションする仕組みを構築する。
    - 民間からの表彰委員会メンバーは、技術委員会 1 号委員(企業からの委員)から選出する。
    - 大学関係者からの表彰委員会メンバーは、調査専門委員会の幹事・幹事補佐を中心に選出する。

5-10. 第 44 回電気電子絶縁材料システムシンポジウム開催報告について（布施幹事補佐）

資料 DEI-211-10 に基づき、第 44 回電気電子絶縁材料システムシンポジウム開催報告(案)が紹介された。余った予算(236,013 円)については、電気学会本部会計へ繰り入れる。

5-11. 第 44 回電気電子絶縁材料システムシンポジウム 運営上の反省点について（関口幹事）

資料 DEI-211-11 に基づき、第 44 回電気電子絶縁材料システムシンポジウムにおける運営上の反省点について検討を行なった。次回シンポジウムや ISEIM で改善に努める。

- 外部(当技術委員会以外)からの意見も参考する(当技術委員会での常識が、他では通じない場合もある)。
- 企画セッションのスタッフ(電気学会非会員)も、絶縁シンポジウムの参加費を支払った。次回は、スタッフの経済的な負担が小さくなるように検討する。
- 会場として公共の施設を使用する場合、午前 9 時からしか開場できない場合が多い。開場時間の連絡を徹底する、あるいは開場時間に合わせたプログラムを作成するなどの対策が必要。
- 懇親会があることを知らない参加者も多かった。ウェブサイトに明記するなど、連絡を徹底する。
- MVP セッションの実施方法を、コーディネーターに確実に伝達するようにする。
- SS セッションの発表を、学生が聞けるように、MVP セッションの実施方法を検討する。

5-12. 第 30 回誘電・絶縁材料に関する若手セミナー 開催報告について（布施幹事補佐）

資料 DEI-211-12 に基づき、第 30 回誘電・絶縁材料に関する若手セミナー 開催報告(案)が紹介された。次回は、3 年後の開催を目指す。

5-13. ISEIM 2014 について（田中委員長，布施幹事補佐，今井幹事補佐）

資料 DEI-211-13～16 に基づき、ISEIM 2014 について、下記を取り決めた。

- 会費は、IEEJ, IEEE, CIGRE, CEI, または KIEEME 正員は 35,000 円、非会員は 40,000 円、学生は 15,000 円とする。
- テクニカルツアーは、火力発電所・ナミックス・観光名所(新潟ふるさと村)を回るコースとし、バス 1 台を手配する。
- MVP・SS セッションについては、2 回発表することとし、1 回目は学生や参加者が開場に集まるように対策を講じる。2 回目は通常のポスター発表とする。
- シミュレーションのワークショップにおいて、九州工大 小迫先生、東大 熊田先生を、アシスタントコーディネーターとする。
- 空間電荷のデモンストレーションにおいて、豊橋技科大 村上先生、東京都市大 三宅先生を、アシスタントディレクターとする。
- 空間電荷のチュートリアルにおいて、ファイブラボの Kohno さんに協力を要請する。
- 犬石賞の謝礼は、副賞 100,000 円＋旅費補助 100,000 円とする。
- シミュレーションのワークショップにおける招待講演者には、謝礼として 20,000 円／1 人(5～6 人程度)を支払う。また、招待講演者の学会参加費は、本人に負担してもらう。
- 空間電荷のデモンストレーションにおける機材の輸送費は、基本はデモンストレーションの実施者に負担して頂くが、必要に応じて輸送費の補助を検討する。
- 企業や大学をリタイヤしている参加者の学会参加費の値引きを検討する。値引率は次回委員会で決定する。

- シミュレーションのワークショップ，空間電荷のチュートリアル，テクニカルツアーは、それぞれの参加者に 1,000 円／1 人を負担して頂く。
- SS セッションでの発表について、昭和電線様，日立製作所様，日本がいし様，ビスキャス様，日立金属様，日新電機様，東芝様，電力中央研究所様に検討をお願いした。
- 現在の申込み数は、目標 160 件に対して、26 件となっている。2013 年 12 月 20 日の締め切りまで、積極的な申込みを関係者に依頼する。
- 2014 年 1 月 20 日までに、Acceptance notice(原稿作成依頼)を申込者に配信する。
- 原稿の締め切りは当初の予定通り、2014 年 2 月 28 日とする。
- Paper の頁数は以下とする。
    - 一般発表　　：Manuscript 4 頁以内，　Extended summary 1 頁 (オーラル・ポスター・MVP)
    - 空間電荷　　：Manuscript 4 頁以内，　Extended summary 1 頁 (オーラル)
    - 空間電荷　　：Manuscript なし，　Extended summary なし (デモンストレーション)
    - シミュレーション　：Manuscript なし，　Extended summary なし (ワークショップ)
    - SS セッション　　：Manuscript なし，　Extended summary 1 頁
- Paper のレビューでは、体裁確認のみとし、内容の確認は行わない。
    - 英語で記述されているか？
    - タイトル、名前、所属などがフォーマットに沿って記述されているか？
    - 行間を広げていないか？　など

６．次回(第 212 回)技術委員会の開催

第 212 回 誘電・絶縁材料技術委員会は、2014 年 3 月 28 日(金)午後の開催とし、ISEIM 組織員会も兼ねる。

－以上－